

令和5年10月25日



志賀町教育委員会
教育長 間 嶋 正 剛 様

富来地域小中学校適正規模・
適正配置検討委員会
委員長 中 島 進



答 申 書

本委員会は、令和4年5月24日付け志教学第343号の諮問に応じ、富来地域小中学校の適正規模・適正配置のあり方について慎重に検討した結果を、別紙のとおり答申いたします。

記

【別紙】

- 1 答申書
- 2 富来地域小中学校適正規模・適正配置検討委員会 検討概要
- 3 富来地域小中学校適正規模・適正配置検討委員会 検討資料

答 申 書

1 諮問事項

「富来地域小中学校における適正規模・適正配置のあり方について」

2 検討の視点

当委員会では、子ども達が健やかに成長できる環境づくりを最優先に、地域の特色を活かした学校運営や学校統合などの学校配置、学校の小規模化に伴う諸問題への対応など、地域の実情に応じた適切な学校教育のあり方や、学校規模について検討を行った。

3 答申内容

小中学校のあり方について

「富来小学校と富来中学校を集約し、施設一体型の小中一貫教育学校を開設することが望ましい」

4 答申理由

小中一貫教育学校の開設が望ましい理由は次のとおり。

- 1 志賀小学校・志賀中学校との統合は通学時間が長くなり、児童生徒の負担となる。
- 2 富来地域の特色を活かした教育環境を整えることができる。
- 3 富来小学校・富来中学校の結びつきが強く、小中学校間の連携の面でも成果をあげている。
- 4 学校と地域の連携も強く、小中学校を同じ地域の学校として支える環境や仕組みが整っている。

5 期待される効果

小中一貫教育学校では、学習指導要領に準拠した区切りを維持しつつ、次のような特色ある教育活動を進めることができる。

1 学校運営体制

小中一貫教育学校は、法律上は小学校と中学校を基本とするが、小学校と中学校が一つの学校として、一体となった組織体制を編制することができる。

2 小中学校の交流

施設が一体化するメリットを活かし、授業や学校行事などの交流を深め、9年間を通じて互いに人間関係が深まる交流活動を行うことができる。

また、小中学校の教員が相互に連携協力するとともに、中学校教員の専門性を最大限に活かし、小学校の複式学級や、高学年の教科を担当することができる。

3 9年間の一貫した教育課程

現行の学習指導要領の範囲内で、各教科・領域等において、9年間の一貫した教育課程を編成することにより、小中学校の接続を円滑化するとともに、児童生徒の発達段階に応じた学習指導や生徒指導を行うことができる。

4 富来地域の特色を活かした学習

富来地域は、豊かな風土や歴史、文化的行事に恵まれており、これまで小中学校では、これらの教育資源を活かした教育活動を展開してきた。

小中一貫教育学校では、これまで取り組んできた実践を踏まえ、各教科各領域を通じてふるさとを知り、ふるさとを愛する、ふるさと学習を展開することができる。

6 開校予定時期

「できる限り早期に開校することが望ましい」

(理由)

- 1 著しい児童生徒数の減少により、小学校の複式学級編制も迫る中、教育環境の充実を図るため、早期の開校を望む。
- 2 珠洲市立宝立小中学校設立を例とすると、準備期間に5年程度は要する。保護者や地域への説明、準備委員会の開催、学校施設の整備、教育課程編成等。

7 要望事項

本検討委員会の答申後、今後の基本方針（学校適正配置案）を策定、正式決定することが想定されるが、以下の点に留意して進めていただきたい。

- 1 総合教育会議等で十分な議論や、シミュレーションをして策定すること。
- 2 保護者及び地域住民への十分な説明を行うこと。
- 3 保護者及び地域住民への説明会の意見を受け、正式決定すること。